

留学生への研究支援について

田中 茂

熊本大学工学部技術部

1. はじめに

熊本大学は知的国際交流を積極的に推進するとともに留学生教育に努め、双方向的な国際交流の担い手の育成を目指しています。工学部には世界各国から多くの外国人留学生が在籍し、日本人学生と共に研究に取り組んでいます。本文では、私がこれまでの留学生への研究支援を通して感じた事を記します。

2. 留学生について

熊本大学は21世紀COEプログラムで衝撃分野の採択があり、私自身はその衝撃分野の研究室の支援を多く行うので、外国人留学生と接する機会が多くあります。彼らの留学の目的は、日本での学位取得や母国での学位取得に必要な研究データの収集が主です。私が知り合った留学生には、非常に優秀で積極的な方が多くいました。来日当初は、指導教員やチューターからの支援を受けながら日本での生活を送って行きますが、数か月もすると研究面での話し合いは日本語で行えるようになりました。日本語で留学生と会話することは非常に楽ですが、それは日本人学生にとって大変マイナスな事であると考えます。

3. 日本人学生のメリット

外国人留学生が在籍する研究室の日本人学生の大きなメリットは、英会話を学べる事であると思います。私は間違った英語を使っても相手には通じると思っているので、外国人留学生とは積極的に話しますし、日本人学生にも積極的に会話をするように勧めてきました。日本人学生も、研究発表を英語でやるなどの努力をしてきました。現在私が支援する研究室には、アメリカ、インド、イラン、バングラディッシュから計5名（9月には新たに2名）の留学生が在籍し内4名は日本語を全く話せません。しかしながら、日本人学生と留学生の間では良好なコミュニケーションが取れています。これは、留学生が日本語を必要としない研究室環境であるということと、日本人学生の英会話の能力の向上によるものがあると考えております。

4. 最後に

熊本大学はこれまでに、国内外問わず様々な大学PRを行って参りました。本年の1月には国際化推進機構が設置され、今後益々留学生の人数は増えると思います。現場で支援する技術職員は、外国人留学生と日本人学生の双方に有効な支援をする必要があると考えます。